





























## 宮古島のパーントゥ (野原のパーントゥ)

国指定文化財(重要無形民俗文化財)  
平成5年12月13日指定  
保持団体 野原部落会

平良市島尻に伝わる島尻のパーントゥとともに国の重要無形民俗文化財に指定されている。野原のパーントゥは、上野村野原部落で旧暦12月最後の丑の日に行われるサトゥバライ(里絨い)という行事で出現する。パーントゥは仮面(鬼面)であり、お化け、鬼神を意味した言葉であるという。野原部落ではいつ頃から伝わったかについては不明であるが、部落の共有物としてパーントゥの仮面がある。

サトゥバライの行事は、婦人と中学生までの男子で構成して行われ、婦人たちは頭と腰にクロツグとセンニングサを巻き両手にヤブニッケイの小枝を持つ。男子1人はパーントゥの仮面をつけ、他の男子は小太鼓とホラ貝で囃す。夕刻、大嶽に向かって長老が「すべての悪を払い、良い事ばかり招来できる良い年を迎えさせて下さい。」と願いごとを述べ出発する。行程は部落中央の通りを通るが、新築の家などから申し出があれば多少道順をかえ新築の家などを抜く。行程では婦人たちが小枝を振り「ホーイホーイ」と声を出すとホラ貝が「ブーブー」と吹かれる。四辻にさしかかると2列隊形から円陣にかえ3回回って円陣中央に向かい屈んで輪を小さくしながら小枝を激しく振り「ウルウルウル・・・」と叫ぶ。行程の終点は部落の南西の端、ムスルンミで身に付けていた草や小枝を取りはずして置き、巻き踊りをして行事を終了し各各帰路につく。























































































































































